

令和5年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立中濃特別支援学校

学校番号

114

自己評価

学校教育目標	児童生徒一人一人の自立や社会参加、個に応じた就労の実現を目指し、自分のよさを生かして必要な力を培い、自分らしく豊かに生きる力を育成する
--------	---

【小学部】

評価する領域・分野	「教育活動、学習指導」「保護者、地域との連携」
現状及びアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童の実態、保護者の願いをもとに、共通理解を図りながら指導支援の充実を図った。連絡帳や通信を通して、活動内容や児童の様子を詳しく伝えたことは、保護者から高評価を得ている。</li> <li>地域・居住地校との直接交流が実施できた。交流は、児童にとってより良いものになっていることを、さらに発信していくことが課題である。</li> </ul>
今年度の重点目標	<p>個々の興味・関心に基づき、仲間と関わり合いながら集団の中で生き生きと過ごし、自信をもってできる力を育てる</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自ら挨拶し、仲間と関わり仲よく活動する</li> <li>課題に最後まで取り組み、丈夫な体を作る</li> <li>様々な活動に挑戦し、自らできることを増やす</li> </ul>
重点目標の達成とアンケート結果に基づいた改善の取組の成果と課題 成果＝○ 課題＝●	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学年交流会の実施により、他学年の様子を知る機会となり、児童の頑張りを認め励まし合う機会となった。</li> <li>○生活単元学習の時間に山歩き「わくわく」を実施し、児童の体力向上につながった。週1回の取組を継続していく。</li> <li>○職員間に、児童支援について気楽に話せる雰囲気、協力できる体制があり、連携して指導を行うことができた。</li> <li>●小学部全体で交流を図る場がないため、学期に一度、交流する機会があるとよい。</li> <li>●生活単元学習の山歩きは、夏場の暑さや獣の出没などの危険が伴うことがある。</li> </ul>
評価	総合評価
A＝十分達成した B＝おおむね達成した C＝やや不十分 D＝不十分	A (B) C D
来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> <li>学年交流会、部集会を計画し、小学部での交流の場を増やす。教員間の連携を進め、一貫性のある指導支援を行う。</li> <li>山歩き「わくわく」は、週1回で継続。ただし、熊よけの鈴をつけるなどの十分な安全対策を講じると同時に、山の状況について情報収集を行い可否の判断をする。</li> </ul>

【中学部】

評価する領域・分野	「保護者・地域との連携」「教育環境整備」
現状及びアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校評価アンケート項目6、7は、評価1・2が70%を超えた。学校は連絡帳や通信、送迎の時に、生徒の活動を保護者に伝えている。</li> <li>項目3、5においては評価1・2が50%台であり、地域との連携・交流について「わからない」という回答が多かった。</li> </ul>
今年度の重点目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>小学部(小学校)で積み上げた基礎・基本をもとに、自分のよさを生かしながら仲間とともに学び、生活することや働くことに必要な力を育てる。</li> <li>挨拶や自分の気持ち、考えを言葉や表情、身振り等自分なりの方法で豊かに伝える。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分や周りの人の心と体を大切にでき、健康で安心安全な生活を送る。</li> <li>・生活場面や状況に応じた役割や責任を自覚し、あきらめずに行動し、やりきるための基礎的な知識や技能を身に付ける。</li> </ul>
重点目標の達成とアンケート結果に基づいた改善の取組の成果と課題 成果=○ 課題=●	<p>○コロナ禍を経て、5類となった今年度は、体育発表会や修学旅行など、集団・宿泊活動を行い、生徒一人一人が新たに経験を積み上げる機会を設定できた。</p> <p>●地域との連携・交流について、行ったことを情報発信しているが、それを見る保護者がわかりやすいと思える伝達方法を考える必要がある。</p>
評価	総合評価
A=十分達成した B=おおむね達成した C=やや不十分 D=不十分	A (B) C D
来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報発信の機会を増やすため、通常発行している学年通信に加え、部主事より部通信の発行をする。</li> <li>・学年通信は1か月毎、部通信は7月、12月、2月に発行する。</li> <li>・カラー写真、大きなタイトルを使用するなど、より見やすい、読みやすい通信を作成する。</li> </ul>

【高等部】

評価する領域・分野	「教育活動・学習指導」「進路指導」「保護者、地域との連携」
現状及びアンケートの結果分析等	<p>保護者との情報共有や連携や生徒が生き生きと授業に取り組んでいることについて高評価であった。日々の連絡帳や電話、懇談などでのやり取りなど細やかな対応や生徒たちの充実感が保護者に伝わったと考えている。生徒からの評価も概ねよかった。保護者からは見えにくい地域など外部との連携や学校の雰囲気については、今後の課題となった。</p>
今年度の重点目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中学部(中学校)で培った能力をもとに、生涯にわたり、自分らしく豊かに生きられるよう、働く力を身に付け、社会生活に必要な力を育てる</li> <li>・進んで挨拶ややり取りをし、状況に応じた言葉遣いができ、望ましい人間関係を広げる</li> <li>・健康で安心安全な生活に必要な知識と技能を身に付け、自らの健康管理に生かす</li> <li>・自らの社会的役割、主権者としての自覚をもち、責任ある行動ができ、社会生活に必要な知識と技能を身に付け、仲間と協力してやり遂げようとする</li> </ul>
重点目標の達成とアンケート結果に基づいた改善の取組の成果と課題 成果=○ 課題=●	<p>○コロナ禍から比較して、活動の規模や範囲が広がったことや外部の方や先輩からの学ぶ機会は、生徒の意欲や達成感につながった。</p> <p>○高等部全体で生徒支援にあたることができ、足りない部分を補い合い、生徒の成長につなげた。</p> <p>●地域や外部との交流や連携は行っていたが、保護者への周知が足りなかった。</p>
評価	総合評価
A=十分達成した B=おおむね達成した C=やや不十分 D=不十分	A (B) C D
来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分から挨拶をし、話しかけやすい雰囲気作りに努める。</li> <li>・外部機関との交流、連携を今後も行っていく。</li> <li>・地域や外部との連携など見えにくい部分は、通信やホームページなどを定期的に活用して発信する。</li> </ul>

【教務部】	
評価する領域・分野	「教育活動・学習指導」「保護者、地域との連携」「情報提供」
現状及びアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科領域会において、学年・部を越えたグループで授業内容や教材教具についての実践交流を行ったことが、授業内容や教材教具の工夫への保護者の高評価につながった（問14）。</li> <li>・年4回の個別懇談会において、個別の指導計画に基づく学習の様子と成長を保護者と情報共有でき、保護者からの高評価を得た（問7）。</li> <li>・年間4回の授業参観と1回の学校行事参観の設定が、保護者から高評価を得た（問8）。</li> <li>・近隣の学校や地域の方との交流会を年間計画に位置付けて実施しているが、交流相手の都合により通信やHPでの写真掲載が難しく、保護者にその様子を十分に伝えることができなかった。そのため、保護者からの否定的評価につながったと考える（問3&amp;問5）。</li> </ul>
今年度の重点目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・データ教材の共有と教科領域会における実践交流を通し、学年や部を越えて効果的な支援を共有する。</li> <li>・保護者への年間スケジュールの提示や適時の情報発信を行う。</li> <li>・地域の資源（もの、ひと、こと）を活用した教育計画を推進する。</li> </ul>
重点目標の達成とアンケート結果に基づいた改善の取組の成果と課題 成果＝○ 課題＝●	<p>○教科領域会は、教員が希望するグループ編成により、実践交流にとどまらず、効果的な支援の共有や課題解決に結びつけることができた。</p> <p>○年間行事計画について、年度当初のHP掲載と紙面（PTA総会資料）での配付に加え、適時の案内状配付ができた。</p> <p>○校内掲示計画に基づいて校外作品展に児童生徒の作品を出品することを通し、地域の方に本校の教育活動を発信できた。</p> <p>●校外作品展の案内文や、該当児童生徒の保護者に出品案内文を配付しているが、HPへの掲載は数件のみであった。</p>
評価	総合評価
A＝十分達成した B＝おおむね達成した C＝やや不十分 D＝不十分	A (B) C D
来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科領域会については、教員の希望を踏まえ、学年や部を越えたグループ編成での実施を継続する。また、夏季休業中に実施し、2学期以降の支援につなげる。</li> <li>・年間行事計画については、年度当初のHP掲載と紙面での周知、時期を捉えた案内文書の配付を継続する。</li> <li>・校外作品展への出品を積極的に行い、本校の教育活動を発信する。また、作品展の案内文の配付に加え、展示の様子をHPに掲載する。</li> </ul>

【情報教育部】	
評価する領域・分野	「教育活動 学習指導」「情報提供」
現状及びアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・月一回の情報研修会を開催して、職員のICT活用の機械を増やし、授業に還元した。</li> <li>・ホームページを通して、教育活動等を地域にPRできているかという項目では、肯定的な意見は多かったものの、分からないという意見も多かった。</li> </ul>
今年度の重点目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒がICTを活用できる環境を整え、児童生徒主体の探求的な学習活動が行われる授業を行い、社会で必要なICT活用能力を育てる。</li> <li>・ホームページに常に最新情報を提供できるように管理する。</li> </ul>
重点目標の達成とアンケート結果に基づいた改善の取組の成	<p>○保護者の回答からは、「保護者（地域）にわかりやすく伝えている」点は、肯定的な割合が高かった。</p> <p>●教育活動のPRに関しては、「わからない」のポイントが高かった。</p>

果と課題 成果＝○ 課題＝●	
評価	総合評価
A＝十分達成した B＝おおむね達成した C＝やや不十分 D＝不十分	A (B) C D
来年度に向けての 改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> <li>・HP掲載計画をたて定期的に情報発信できるようにする。</li> <li>・すぐメールで保護者に周知し、HPを見てもらうようにする。</li> <li>・HPを見てもらう習慣をつくれるよういろいろな手段を使い、保護者への周知を工夫していく。</li> </ul>

【研修部】

評価する領域・分野	「教育活動・学習指導」「研修（資質向上の取組）」
現状及びアンケート の結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育活動・学習指導では、外部からは概ね高評価をいただいている。現状では、教員同士が直接授業を見合う機会が少なく、学び合う機会が少ない。</li> </ul>
今年度の重点目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・健康で安心安全な生活を送ることができる環境づくり</li> <li>・育てたい資質・能力を確実に身に付けるための授業づくり</li> <li>・「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善</li> </ul>
重点目標の達成とアンケート結果に基づいた改善の取組の成果と課題 成果＝○ 課題＝●	<p>○児童生徒の強みやよさ、困り感に目を向けた実態把握を行い、個々に応じた環境設定や支援を工夫した授業実践をした。</p> <p>○特別支援教育に携わる教職員として、専門性を高める研修会を各分掌と連携し、年間を通して計画的に実施した。</p> <p>●授業を直接見合うことが難しい現状であるが、研究会や研究の日、公開授業期間等を通して、お互いの実践について交流する場を提供していく。</p> <p>●職員研修についてのニーズ調査を行い、当校の課題と合わせて研修内容を決定していく。</p>
評価	総合評価
A＝十分達成した B＝おおむね達成した C＝やや不十分 D＝不十分	A (B) C D
来年度に向けての 改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公開授業期間を一定期間設け、お互いの授業を見合う機会を保障する。</li> <li>・教職員の研修ニーズに応えられる講師の選定や研修内容を提供する。</li> <li>・外部講師による授業実践への指導・助言をいただき、授業改善を図る。</li> </ul>

【生活支援部】

評価する領域・分野	「生徒指導（教育相談）」
現状及びアンケート の結果分析等	<p>保護者のアンケートより</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「学校は、普段から児童生徒の様子を把握し、心のアンケートやカウンセラー相談等を活用して、いじめ未然防止や早期発見のための対応をしている。」→分からないの回答が多かった。理由としては、アンケートはとるものの、その結果を基にした報告や成果をフィードバックする機会が少なかったことが考えられる。</li> <li>・「学校は、体罰防止に努め、児童生徒への指導に当たり、いかなる場合も体罰を行っていない。」→分からないの回答が多かった。理由としては、年度初めの配布資料のみで、PTA 総会等の全校児童生徒保護者に向けて、内容を丁寧に説明する機会がもてなかったからだと考えられる。</li> </ul>
今年度の重点目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・信頼と愛情を基盤とした児童生徒理解に徹し、よりよい人間関係の形成を図り、自己指導能力を育てる。</li> <li>・家庭や地域及び関係諸機関等との連携・協力を図る。</li> <li>・全職員の共通理解のもと、協力体制と指導体制を整備する。</li> </ul>

重点目標の達成とアンケート結果に基づいた改善の取組の成果と課題 成果＝○ 課題＝●	○学校生活アンケートや心のアンケート等で、家庭の協力を得て児童生徒の実態を把握することができた。 ●困り感のある児童生徒の情報共有が、担任や一部の職員あるいは学部内にとどまり、組織的な指導支援がうまく機能せず、事後的な対応になるケースがあった。 ●保護者や児童生徒に対して、生徒指導上必要な事柄（いじめ・体罰・情報モラル等）を啓発していく機会はおもてたが、時期が少し遅れ事後的な指導になった。
---	--

評価	総合評価
A＝十分達成した B＝おおむね達成した C＝やや不十分 D＝不十分	A (B) C D
来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> <li>・クラス担任向けの web 上アンケートを実施し、児童生徒の実態把握とともに、速やかに情報を吸い上げるシステムを構築し、分掌内でも必要な指導支援を検討する時間を設ける。そして、職員会等で発信していく。</li> <li>・年度初めの通信や PTA 総会等を活用して、できるだけ早い時期に保護者や児童生徒に啓発するとともに、学期毎に繰り返し指導を行っていく。</li> </ul>

#### 【進路支援部】

評価する領域・分野	「進路指導」
現状及びアンケートの結果分析等	保護者のアンケート結果では、学校が地域の企業や福祉事業所との連携について否定的または「わからない」と思われている意見が多かった。職場実習など、特に進路に直結する取り組みが多いのは高等部であり、小学部や中学部の保護者には卒業後の進路に向けた高等部の取り組みは不透明であったのかもしれない。今後はより一層、小学部や中学部の保護者にも卒業後の進路を見据えて「今できること」を考えられる機会を設ける必要があると思われる。
今年度の重点目標	社会的・職業的自立に向けて必要となる資質・能力・態度を育てる。
重点目標の達成とアンケート結果に基づいた改善の取組の成果と課題 成果＝○ 課題＝●	○卒業生に來校してもらい、働くことについて生徒向け講話（先輩と語る会）を実施したことで、生徒の働くことへの意識向上に繋がった。 ○関特別支援学校と共催にて、福祉サービス事業所説明会を実施した。両校の保護者が直接事業所の活動を聞くことができる機会となった。 ●外部の専門家を講師とした保護者向けの進路説明会を実施した。保護者の参加数を増やす（保護者が参加しやすい）工夫が必要だった。
評価	総合評価
A＝十分達成した B＝おおむね達成した C＝やや不十分 D＝不十分	A (B) C D
来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> <li>・先輩と語る会に保護者にも参加してもらえるように検討する。</li> <li>・福祉サービス事業所説明会について、より多くの方に参加してもらえよう、関市や美濃市と協力する。</li> <li>・ホームページや SNS などを有効的に活用して保護者へ発信する。</li> </ul>

#### 【健康支援部】

評価する領域・分野	「保健管理」
現状及びアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校評価アンケート 質問 20 において、医療機関とは「緊急時」や「必要に応じて」連携を図っているが、個人情報保護により、保護者を飛び越えて医療機関と連携を図ることは難しい。</li> <li>・「学校保健安全法施行規則」により、学校で定期健康診断を行った時は、21 日以内にその結果を保護者に通知することになっている。すでに通院して結果が分かっている場合は、保護者がその旨を記入する様式になっている。</li> </ul>

今年度の重点目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>健康に配慮した食生活を営むことや運動を継続することが、健康に大切であることを推進する。</li> <li>性教育のあり方について、小学部から高等部までの系統性のある実践に努める。</li> <li>児童生徒が自らの健康課題に気付き、その解決に必要な知識や技能を身に付け、日常生活に生かせるような実践に努める。</li> </ul>
重点目標の達成とアンケート結果に基づいた改善の取組の成果と課題 成果＝○ 課題＝●	<p>○保護者、担任、保健室（養護教諭・栄養教諭）が連携を図って肥満指導（ハピチュヘルププログラム）を行うことで、肥満度の増加を抑えることができた。</p> <p>○12年間性教育プログラム「スマイルハッピーライフ」の提案と職員研修会によって、各部で実態に応じた性教育の実践を行うことができた。</p> <p>●保護者の負担にならないように、受診勧告書等の様式を変更するなどの対応を行う。</p> <p>●医療機関と連携を図る時は、保護者目線に立ち、誠意をもって保護者対応を行う。</p>
評価	総合評価
A＝十分達成した B＝おおむね達成した C＝やや不十分 D＝不十分	A (B) C D
来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> <li>各健診結果と結果一覧を配付し、医療が必要になった場合には、学校医に相談できることを案内や通信等で発信する。</li> <li>学校保健安全委員会に参加したPTA保護者代表から、「〇〇〇に参加しました」のように、広報の記事等に掲載したり、会合の話題にしたりすることで学校の取り組みを保護者へ広げる。</li> </ul>

【防災安全部】

評価する領域・分野	「安全管理」「教育環境整備」
現状及びアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> <li>問 22「学校は、児童生徒の安全に気を配り、緊急時の対応がしっかりしている。」は、保護者から65P以上の高評価を得た。引き続き気象状況を的確に把握し、管理職や生活支援部等と連携して、通学等の安全な学校運営に携わる。</li> <li>問 14「学校の先生は、生徒の健康管理や安全に気を配り、教室をきれいにしている。」は、生徒から「そう思わない」の回答があった。健康支援部と連携しつつ安全点検や職員作業を通して、教室環境の整備の必要性をより啓発し、理解を深めていく必要がある。</li> </ul>
今年度の重点目標	健康で安心安全な生活を送ることができる環境づくり
重点目標の達成とアンケート結果に基づいた改善の取組の成果と課題 成果＝○ 課題＝●	<p>○本校の立地条件や過去の状況を目下の気象条件と照らし合わせることで、より安全な対応を災害対策本部で共通理解することができた。</p> <p>○職員作業にて、児童生徒が安全に活動できるグラウンド整備ができた（草、小石、ペグ等の除去）。</p> <p>○職員作業にて、敷地内の植込み等を整備したことにより、学校周辺の道路や交差点の美化や安全性が保たれた。</p> <p>●勤務状況により、すぐメールを閲覧できない保護者への対応が不十分だった。</p> <p>●過去のペグや釘の除去、点検を健康支援部と連携して万全のものとする。</p> <p>●学校は地域の一部であることの全職員の意識の向上。</p>
評価	総合評価
A＝十分達成した B＝おおむね達成した C＝やや不十分 D＝不十分	A (B) C D

来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> <li>・引渡しカードに、すぐメールとは別途の電話連絡希望欄の追加。</li> <li>・職員作業でのグラウンド総点検。</li> <li>・学校周辺の状況のビフォー・アフターの視覚的な比較。</li> </ul>
---------------	--

【地域支援センター部】

評価する領域・分野	「保護者地域との連携」
現状及びアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・相手校と連携し居住地校交流に取り組んでいる。(3)</li> <li>・必要に応じて他分掌や関係機関と連携を図っている。(10 20)</li> </ul>
今年度の重点目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・交流活動、地域活動を通して、人との関わりをもち、意欲的に活動できる児童生徒を育てる。</li> <li>・家庭や地域及び関係機関等との連携、協力を図り、社会参加へ向けての環境を整え、地域との結びつきや理解を深める。</li> </ul>
重点目標の達成とアンケート結果に基づいた改善の取組の成果と課題 成果=○ 課題=●	<p>○居住地校交流は、本人、保護者の思いを踏まえつつ相手校と連携し取り組んだ。</p> <p>○必要に応じて他分掌や関係機関と連携を図り、支援体制を構築し、役割分担をして支援にあたった。</p> <p>○関係機関の協力を得て、公開講座の情報提供をしたり、学校見学において案内及び説明をしたりして特別支援教育の理解促進を図った。</p> <p>●居住地校交流は、内容が当校の児童生徒にとって難しいケースもあった。</p>
評価	総合評価
A=十分達成した B=おおむね達成した C=やや不十分 D=不十分	A (B) C D
来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> <li>・担任や他分掌と連携を図り、情報共有をすることで本人や保護者の思いをより汲み取れるようにする。</li> <li>・関係機関とは、引き続き関係づくりに努め、連絡を密にするとともに丁寧な対応を心がける。</li> <li>・懇談等にて居住地校交流の振り返りを行い、思いや活動内容を来年度に引き継ぎ、スムーズな連携につなげる(双方にとってよい交流を目指す)。</li> </ul>

【渉外部】

評価する領域・分野	「保護者、地域との連携」「情報提供」
現状及びアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・これまでコロナ禍により、参集による様々なPTA活動が中止、縮小されてきた。間接的な方法でPTA活動を行ってきたが、対面での活動ができなかったことにより、保護者同士の繋がりが希薄になっている。また、PTA活動のイメージがもてていない現状にあると考えられる。</li> <li>・問23の「わからない」ポイントが高くなっている。渉外部担当の校外作品展を実施しているが、地域に向けての情報発信が不足していた影響が考えられる。</li> </ul>
今年度の重点目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・健康で安心安全な生活を送ることができる環境づくり</li> <li>・各委員会における研修会等で、情報が共有できるよう保護者のニーズに対応した情報発信ができるように支援する。</li> <li>・PTA活動の積極的な参加を促し、保護者同士のつながりを図る。</li> <li>・同窓会行事において役員を中心に運営できるように補佐する。</li> </ul>
重点目標の達成とアンケート結果に基づいた改善の取組の成果と課題 成果=○ 課題=●	<p>○新型コロナウイルス感染症が5類移行になって以降、施設見学、研修会等参集によるPTA各事業を実施することができた。また、オンデマンド配信や書面による情報発信をすることができた。</p> <p>○ボウリング大会や20歳を祝う会など同窓会行事の運営を、役員を中心に任せていくことができた。</p> <p>●参集による研修会等が実施できるようになり、参加者には好評をいただ</p>

	<p>いたが、参加人数が少なかった。多くの保護者に参加していただける方法を考えていく。</p> <p>●今年度、校外作品展を年2回実施した。2回目についてはホームページに掲載し案内したが、掲載時期が遅れ、外部に向けて十分な情報発信ができなかった。</p>
評価	総合評価
A=十分達成した B=おおむね達成した C=やや不十分 D=不十分	A (B) C D
来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> <li>・参集によるPTA活動を推進していくが、研修会等保護者のニーズを把握した上で企画し、積極的な参加を促す工夫や情報共有ができるようにサポートしていく。施設見学等進路関係のPTA事業は、関係分掌と連携して進める。</li> <li>・参集によるPTA総会を開催し、PTA活動の理解を促していく。</li> <li>・渉外部担当の校外作品展の開催案内を早い時期からホームページに載せて外部に向けて情報発信する。</li> <li>・同窓会行事の運営については、同窓会入会時に運営の依頼をしておき、更に役員中心に進められるように補佐していく。</li> </ul>

学校関係者評価 (令和6年2月27日実施の学校運営協議会より)

<p>意見・要望・評価等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒は、教師や友達、交流相手、街で出会う人々とのふれあいや、体験的な経験を通して成長する。学校教育全体からそれに基づいた取組や成長が感じられるが、コロナ禍が明けた今後もそのような活動を積極的にお願したい。</li> <li>・教師が教育活動以外に注力することにならないよう、教師の研修は必要ではあるが、授業に生かせる範囲で願いたい。</li> <li>・社会ではその場に合った言葉遣いも大切となるがその基礎が挨拶であると思う。学校全体を通して、各部において挨拶を重点目標に掲げて取り組まれている。</li> <li>・進路指導が実施している福祉事業所説明会の取組は、将来への漠然とした不安をもつ保護者にとってとても有意義で、事業所に話を聞きに行くきっかけとなる取組である。</li> <li>・今年度の各部の教育実践についてと各部と各分掌の取組やその改善について、学校運営協議会委員の賛同を得ることができた。委員からは、学校の教育全体を通して、児童生徒の体験的な授業や交流活動のような体験を仲間と一緒に取り組んでいることが評価された。また、学校評価アンケートの反省に基づいた取組の改善が細かに進められているとの意見をもらった。</li> </ul> <p>○高評価と同時に期待を込めた意見も多くあり、今後は、それを来年度の本校の教育にいかしていく。</p>
---